

北海学園大学セルフリノベーション ハウスがついに完成！



今年は「仕事と一緒に移住」をテーマにした「牆壁^{しやくへき}選^{すぐ}るワークスタイル」と居住空間の融合^{うごく}のコンセプトのもと、沼田厚生クリニックの旧院長住宅をリノベーションしました。セルフリノベーションのリーダーである岡本ゼミの阿部弘朗さんは「床を一部低くする改修がとても大変でしたが、座れるようになり、住宅を活用してくれる方に、この空間をワーカースペースとして活用するか、家族との団欒に活用するか、いろいろと工夫して楽しんで利用して欲しいです。」と話していました。リノベーションした住宅は来年度から企業誘致や移住体験住宅として活用する予定です。

北海学園大学で建築を学ぶ学生が、町内の空き家を学生自身でリノベーションし、移住体験等に有効活用する事業を実施し、今年で3年目となります。この事業がきっかけとなり、北海学園大学と包括連携協定を結びました。



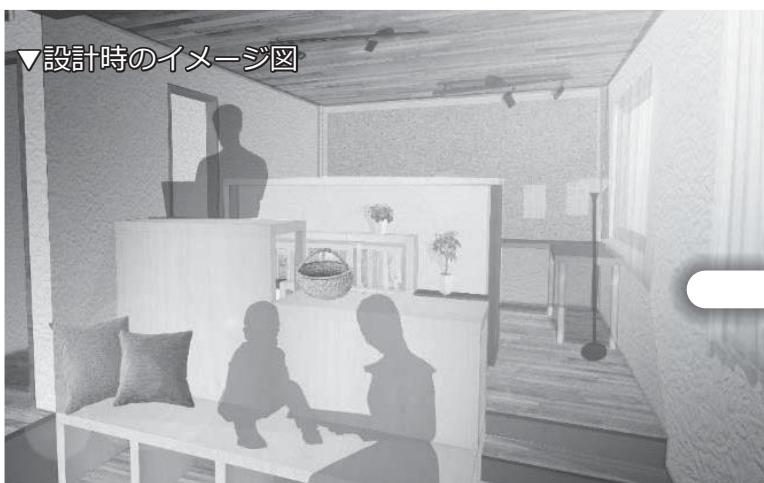
▼設計時のイメージ図



▼施工後



▼設計時のイメージ図



▼施工後



北海学園大学と包括連携協定を結んでいます

市に続き2例目となります。

なお、北海学園大学が市町村と協定を結ぶのは北広島

沼田町と札幌市にある北海学園大学（安酸敏眞学長）は7月9日、学術振興や地域づくりの推進を目的とした包括連携協定を結び、札幌市豊平区の同大学で行わ

れた締結式で安酸敏眞学長は「沼田町が『サテライトキャンパス』になったという気持ち。現地まで足を運んで学生に地域課題を学んでほしい」と挨拶。横山町長は「これまでセルフリノベーションを通じて私たちのまちに『無いもの』に気づかされた。大学とのつながりを町づくりに活かしたい」と話しました。

